

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	5/2(月)	5/3(火)～5/5(木)	5/6(金)	5/9(月)	5/10(火)	5/11(水)	5/12(木)	5/13(金)
無担保O/N	△ 0.086% ～ 0.001%							
銀行券	△ 100	祝日	+ 4,000	+ 4,000	+ 3,000	+ 3,000	+ 2,000	+ 1,000
財政他	△ 22,600		△ 10,000	△ 35,000	△ 4,000	△ 2,000	△ 25,000	△ 28,000
資金需給	不 22,700		不 6,000	不 31,000	不 1,000	余 1,000	不 23,000	不 27,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)			法人税・消費税・保険揚げ			国庫短期証券発行・償還(3M)、国債発行(10年)源泉税揚げ 交付税特会借入・償還	国庫短期証券発行・償還(6M)
オペ期日	共通担保(全店) △ 9,700 CP等買入 △ 500 国債補充供給 + 300			共通担保(全店) △ 3,200				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,800							
(日本)	黒田日銀総裁 記者会見(4/28分)要旨		マネジャーベース(4月) 日銀営業毎旬報告 (4月30日現在) 日銀が保有する国債 の銘柄別残高(日銀) 日銀による国庫短期証券 の銘柄別買入額(日銀)	日銀金融政策決定会合 議事要旨 (3月14、15日分) 日銀当座預金増減要因 (5月見込み) 基調的なインフレ率を 捕捉するための指標 毎月勤労統計(3月)		日銀の対政府取引(4月) マネジャーベースと 日本銀行の取引(4月) コール市場残高(4月) 景気動向指数(3月)	金融政策決定会合 における主な意見 (4月27、28日分) 中曽日銀副総裁挨拶 (リテール決済カンファレンス) 日銀営業毎旬報告 (5月10日現在) 対外対内証券売買 日銀が保有する国債 の銘柄別残高(日銀) 日銀による国庫短期証券 の銘柄別買入額(日銀)	黒田日銀総裁講演 (内外情勢調査会)
(海外)	米 ISM製造業景況指数 (4月) 英 祝日のため休場	5/3 米クーパーブランド連銀 総裁講演 5/4 米ADP雇用統計 (4月) 5/4 米ISM非製造業 景況指数(4月) 5/5 米新規失業保険 申請件数 5/5 欧ECB経済報告	米 雇用統計(4月) 米 消費者信用残高 (3月)	米 ミネソタ連銀総裁 講演 英 シカゴ連銀総裁講演 (ロンドン)	米 卸売在庫・売上高 (3月)	米 財政収支(4月)	米 新規失業保険 申請件数 欧 ユーロ圏鉱工業生産 (3月)	米 小売売上高(4月) 米 PPI(4月) 米 企業在庫(3月) 米 シガン大学消費者 マインド指数 欧 ユーロ圏GDP (1Q改定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.08 ～ 0.001
SPOT 2M	△0.08 ～ 0.001
SPOT 3M	△0.08 ～ 0.001
SPOT 6M	△0.08 ～ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初282兆台から始まり、26日に国庫短期証券・国債買入オペ等を要因に285兆円台まで増加した後、財政等要因により284兆円台に減少し越週した。無担保コールON物は週初△0.08～△0.07%台で取引されていたが、翌日以降やや縮まり△0.07～△0.04%のレンジで推移した。同金利加重平均は25日△0.075%、26日△0.067%、27日△0.058%、28日△0.056%と上昇基調を辿った。ターム物は1W～1M物△0.07～△0.05%台の出合い。一方無担保コール市場残高は、一部市場参加者の調達ニーズが高まり4兆円台まで回復した。28日の会合で日銀は金融政策の現状維持を決定したほか、熊本地震の被災地の金融機関を対象に、被災地金融機関支援オペ(無利息での貸付総額3,000億円、残高の2倍の金額をマクロ加算残高に加算)等の措置を導入することを決定した。来週以降の材料として、国内は中曽日銀副総裁挨拶(12日)や黒田日銀総裁講演(13日)、海外は米雇用統計(6日)等が挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ～ 0.005
TDB 3M	△0.300 ～ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ～ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約16,500億円で、期落ち額約11,100億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。石油業を中心に大型の発行案件が見られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。現先レートの中心は、-0.100%～0.000%程度で推移した。大型連休明け9日の週の期落ち額は5,000億円程度となっている。

<TDB>

27日に国庫短期証券3M第604回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.2284%(前回債△0.1924%)、平均落札レートは△0.2473%(前回債△0.2044%)と前回債から利回りは低下した。セカンダリー・近辺の地合いとなっている。6Mは目立った出合は見られず、1Yは△0.29%近辺の地合いとなっている。来月10、12日に3M、11日に6Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは、週初△0.10%近辺で始まった。月末取引である4月28日受渡では△0.14%～△0.13%から出合いが付き始めたが、T/Nでは△0.10%近辺まで上昇した。短国3Mの発行日である5月2日受渡では△0.09%台の出合いが中心となり、T/Nでは△0.08%近辺の出合いも見られた。週末の金融政策決定会合では大きな政策変更はなく、△0.09%～△0.08%の水準で越週した。SCではO/N物で10年340回債が△0.40%台前半△0.30%近辺、10年341回債は△0.30%台半ば△0.20%近辺で取引された。他では2年債363回、5年債127回、10年債330・336・338・342回、30年債50回等に引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。